

あけくれのたより

3月 

発行責任者
前田 功

校長室より

3月 別れと出会いの季節

3月5日は「啓蟄（けいちつ）」。冬ごもりをしていた虫たちが穴から出てきて活動を始める頃です。本校の生徒たちにとっては、卒業や進級の季節です。これまで過ごしてきた学校やクラスから出て、新しい生活の準備を始める季節になりました。また、お世話になった先生方の転勤の発表もこの時期。まさしく別れと出会いの季節の到来です。

さて、1日の卒業式。私が申し上げるのも何ですが、大変すばらしい式になったのではないかと思います。送辞や答辞の訥々とした話の中に、しみじみとした先輩や後輩たちへの思いが凝縮されていて、聞いている保護者・来賓、そして我々教員含めて感動させられました。とりわけすばらしかったのは、あの全員合唱。会場である体育館メインアリーナの天井に大きく反響する大きな声での合唱となりました。前日の予行の際は、担当者から声が出ていないと注意を受けていましたが、本番であの大合唱を聞かされるとつつい練習の時から頼むよ、とも言いたくなりました。それくらいすばらしい合唱だったと思います。生徒たちの底力を感じさせられました。保護者・来賓の皆様の評判もかなりの手応えがあったのではないかと考えています。関係の皆さん、お疲れ様でした。

また、3月15日には市内の中学校の卒業式が行われました。私は福江中学校の式に来賓として出席しましたが、生徒たちは式を盛り上げようと一生懸命でした。特に校長先生が闘病生活を送っていらっしゃる、「何が何でも卒業生に卒業証書を手渡すつもり」で懸命に治療とリハビリに取り組んできた、と式辞の中でおっしゃったときは生徒たちは、涙、涙、涙。その後の送る言葉、お別れの言葉それぞれの中でも校長先生のご病気に触れて、「私たちのために一生懸命闘病生活に取り組んでこられた、負けないように自分たちも何事にも一生懸命取り組まないといけない」という思いが込められており、大変感動したことを覚えています。これもいい卒業式だったなと思いました。他の中学校にも本校から手分けして来賓として出席させてもらいましたが、皆「感動的な卒業式でした」と異口同音に語っていました。そういう中学生が4月からは本校に進学してくると思うと身の引き締まる思いがします。

保護者の皆様、お子様が学習や部活動に打ち込むことは、自分自身の財産作りに他なりません。指導を受ける中でいやだなと感じることを、自分を成長させる肥やしなのだと思います、逃げずに取り組む生徒を育てたいと思っています。教育者であるJ・Jルソーも「人間をだめにする方法が一つある。それは、ほしいものをいつでも何でもふんだんに与えることだ」と言っています。また、「堪忍は一生の宝」という言葉があります。腹が立ってもこらえ忍ぶことのできる人は一生安らかで幸福であるということですが、その一番の具現者が徳川家康であると言われています。その家康が、まだ竹千代と呼ばれていた時代、駿河の国の今川義元の人質でしたが、義元は部下に「むごい教育をせよ」と言っていたそうです。部下が「むごい教育とは何ですか？」と尋ねますと、「寒いときは暖かく、暑いときは涼しく、毎日うまいものを食べさせよ。大概の者はダメになる」と。しかし家康はダメにはならなかった、というのは周知のとおりです。お家再興という目的があったからだろうと思います。お子様が叱られる場面というのは、高校時代が人生最後の場面であるといえるのではないのでしょうか。ですから教え抜く、鍛え抜く、指導し抜く、という姿勢で生徒を指導してまいります。ご了解ください。

そして、年度末の風物詩とも言えるのが、人事異動です。今年は21日に新聞発表が行われました。その中で本校は、私も含めて16名の教職員が転勤や退職で離れて行くことになりました。私はたった2年の在職期間でしかありませんでしたが、校長初任として様々な経験をさせていただきました。生徒たちがよく鍛えられており、非常に気持ちよく過ごさせていただきました。卒業式の式辞の中でも触れましたが、生徒は五高祭や体育祭での溢れんばかりの躍動感に充ちた取組み、学校内外での地域の方々や来客の方々への爽やかなあいさつなど、現代社会において大人が、若者が見失っていることを当然のように実践してくれました。近年、わが五島高校に対する信頼、そして評価がとみに高まってきたのは、ひとえに本校生徒の真剣かつ意欲的な姿勢、若者らしい清々しい態度によるものと確信しています。

私たち教師は生徒諸君の資質や能力を発見し、教え導くことを職務として日々努力しておりますが、私たち教師が逆に生徒の皆さんから、教えられたこと、学ばせてもらったことがたくさんありました。その意味でも本校生徒諸君は、大変すばらしい長崎県内の模範ともいえるべき、「五高生」であったと思います。

2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

卒業式（1日）

3月1日（木）に五島高等学校普通科第64回、衛生看護科第37回の卒業証書授与式を挙行了しました。192名の卒業生に卒業証書が授与されました。

前田校長先生が卒業生へのはなむけの言葉を述べました。その後、在校生代表の森颯馬君が、「今まで私たちを支えてくださった先輩方との別れは、寂しさに耐えられません。しかし、その後ろ姿を目標に、長年受け継がれてきた五島高校の伝統をより良い形で伝えていけるよう、在校生一同、全員で努力することをここに誓います。」と感謝の言葉を卒業生に贈りました。それを受けて卒業生代表の小田ひかりさんは、卒業生、在校生、部活動の仲間、保護者への感謝の気持ちを述べた後に、「私たちの故郷であるこの五島のすべてが私は大好きです。たくさんの愛を注いでくださった方々に心から感謝し、これからも五島高校生として過ごしてきた日々を誇りに私たちも、新しい地でそれぞれの目標に向かって努力していくことを誓います。」と決意を述べました。192名の卒業生達は、それぞれ進む道は違いますが、この五島高校で経験したことを糧にこれからの人生を歩んでほしいと思います。



特別表彰式

2月29日（水）、卒業式に先立ち特別表彰を行いました。高校3年間で学習や部活動などで顕著な活躍をした生徒が表彰されました。各種表彰の内容と表彰者は下記のとおりです。

- 長崎県教育委員会表彰 橋本 佳奈（5組）
- 高体連表彰 出口 敬（5組）
- 産業教育御下賜金記念優秀卒業生表彰
小河原 美教（7組）
- 全国看護高等学校長協会平成23年度生徒表彰
海端 美咲（7組）
- 特別活動功労賞 川端 優美（4組）
杉本 嘉人（5組）
橋本 佳奈（5組）
成田 一誠（6組）

また、3年間無欠席・無遅刻・無早退・無欠課であった生徒18名に皆勤賞が授与されました。PTAから卒業生に記念品として高校3年間の思い出を収録したDVDが贈呈されました。



平成23年度同窓会入会式

2月29日（水）に平成23年度卒業生の同窓会入会式を実施しました。式には、吉野榮一石城会会長、浜辺雪枝・山川悟石城会副会長にご出席いただきました。

最初に吉野会長から入会に際してのあいさつがあり、後輩たちへの熱い思いを語っていただきました。卒業生を代表して野平佳緒里さんが吉野会長を前に、「母校五島高校と郷土の発展に尽力していきます」という力強い入会のことばを述べました。最後に、前田校長より同窓会への入会を祝して、卒業を明日に控える3年生に激励の言葉が述べられ、平成23年度同窓会入会式が終了しました。

会員となった卒業生の皆さんには、進学・就職先で最寄りの支部（東京6月、長崎7月、大阪2月）や帰省した際に五島での懇親会（8月中旬に毎年開催）へ出席し、同窓会の目的である会員の相互融和を図っていただきたいと切に願っています。最後に、学年幹事は中里吉典君と川崎温子さんです。同窓会総会等での活動準備の際には皆さんのご協力をお願いします。



高校入試合格発表（16日）

3月16日（金）に本校プラザにおいて高校入試の合格者発表を行いました。当日はあいにくの雨となりましたが、普通科普通コース150名、普通科スポーツコース16名、衛生看護科18名の合格者の受検番号が掲示されると、受検生は一斉に掲示板に駆け寄って自分の受検番号を見つけて歓声をあげたり、友人達と抱き合ったりして合格の喜びを分かち合っていました。

3月19日（月）に合格者登校、4月3日（火）には新入生オリエンテーションが実施されます。



第2回校内競技大会（12日）

3月12日（月）第2回校内競技大会を開催しました。天候は曇りのち晴れ。寒の戻りもあり、気温が上がらず、コンディションが心配されましたが、選手・応援の気迫が上回り、各会場でいろいろなドラマが生まれました。

今年度最後の大きな行事ということで、各クラスともよくまとまり、生徒それぞれにとって良き思い出となったようです。また今回も職員バスケットボールチームが編成され、連覇を目指し、男子種目の予選から参加しました。「打倒職員チーム！」に燃える生徒たちの挑戦をはねのけ、決勝まで駒を進めましたが、1年6組に敗れ、雄図を断たれました。



会場準備、運営、審判と各方面で協力頂いた男子バスケットボール部、サッカー部、男子ソフトテニス部、女子バスケットボール部、卓球部、野球部のみなさん本当にありがとうございました。

なお、大会の優勝チームは次のとおりです。

- | | | | |
|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> バスケットボール男子 | 1年6組 | <input type="checkbox"/> サッカー男子 | 1年3組 |
| <input type="checkbox"/> ソフトテニス男子 | 2年5組B | <input type="checkbox"/> バスケットボール女子 | 2年3組 |
| <input type="checkbox"/> ソフトボール女子 | 2年3組 | <input type="checkbox"/> 卓球女子 | 1年4組 |

吹奏楽部定期演奏会（20日）

去る3月20日（火・祝）福江文化会館にて、第25回五島高校吹奏楽部定期演奏会を行ないました。当日はたくさんの方にご来場いただき、吹奏楽部の生徒をはじめコーラスで参加してくれた1年音楽選択者、2年有志の生徒たちもステージをとっても楽しんでいました。保護者の皆様、地域の方々、先生方には多方面でご協力をいただき、無事に終演を迎えることができました。本当にありがとうございます。来年の定期演奏会も、より良いものを目指して頑張りたいと思います。応援よろしくお祈りします。



普通科64回生・衛生看護科37回生 結果速報

進路指導部

今年度も、多くの生徒が栄冠を手にしました。生徒たちの頑張り、そして保護者の皆様の暖かい励ましと支えの賜物でもあると思います。

一方で、まだ中期・後期日程の結果を待っている生徒もいます。最後まで粘り強く努力した結果が実を結ぶことを信じています。

※国公立大学73人合格（3/22現在）

（主な合格校、現役生のみ）

大阪大学	2	岡山大学	1	高知大学	3
九州大学	3	熊本大学	2	大分大学	5
広島大学	3	長崎大学	16	佐賀大学	2
長崎県立大学	11	尾道大学	2	愛知県立大学	2
福岡県立大学	2	県立広島大学	1	山口県立大学	1

※私立大学90人合格（3/19現在）

（主な合格校、現役生のみ）

早稲田大学	1	西南学院大学	3	福岡大学	5
-------	---	--------	---	------	---

※就職試験6人合格（3/19現在）

（就職先、現役生のみの実数）

長崎県警察	1	航空自衛隊	2	民間企業就職	2
山口県警察	1				

※衛生看護科：准看護師資格試験全員合格（29人）



「生きる力」 第1学年主任 村田 誠

「生きる力」とは文部科学省が、生徒に身に付けてほしいと思っている力で、以下の3点の力を構成要素とする力です。

①自分で課題を見つけ、**自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し**、よりよく問題を解決する資質や能力 ②自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性 ③たくましく生きるための健康や体力（平成8年7月の第15期中央教育審議会第一次答申）

このような力をつけなければならないと言われるからには、現在の子供たちにはこの「生きる力」が不足しているということでしょう。

「自ら学び・・・」じゃあ、宿題は課さない方が良いのか？そんな話ではないですよ。「来週までにこれだけの宿題があるから、今日はこれくらいやらないといけないぞ。」「自分は大学進学を目指しているのだから部活がきつくても勉強するぞ。」と自ら考え、主体的に判断し、行動する。そんな力を鍛えなければならないと思っています。決してやらなければならないことを避け、後回しにして、なんとかやり過ごす・・・そんなんじゃない。新2年生のみなさん、「生きる力」は身に付いてきましたか？

「生きる力」が身に付かないまま高校を卒業すると、どうなってしまうのでしょうか。2009年に日本能率協会マネジメントセンターが、企業の人事担当者573人を対象に実施した調査（複数回答）によると、若手社員の問題点として53%が「読み書きや考える力など基本能力の低下」を挙げています。さらに「主体性不足」（51%）、「コミュニケーション能力不足」（46%）と続きました。みなさんが五島高校で過ごした1年間を振り返ってください。五島高校で学習、部活動、学校行事に取り組んでいけば、こんな問題点とは無縁ですよ。

誰でも高校を卒業し、将来は仕事に就かなければなりません。変化が激しく、先の見えにくい現代社会の中で、生き生きと、しっかり生き抜いていくことができるよう、五島高校で「生きる力」を磨いてください。あと2年間しかありませんよ。



次年度に向けて 第2学年主任 楠本 亨

月日がたつのは早いもので2年が過ぎ、4月からいよいよ3年生です。先日の学年集会で話しましたが、すでに受験生であるということをしかりと認識してください。そのためにも、**i)授業・補習・課題に対して誠実に向かうこと。（やらされている → やる への意識改革を！） ii)自分の目標に向かって必死に努力すること。 iii)その意識を持ち続けながら自らの課題に取り組むこと。**を実行してください。これらのことが取り組めるかが、進路実現ができるかどうかの分かれ道になります。

先日テレビで、『東日本大震災から1年』という内容で、現在岩手県の一関高等専門学校に通っている梶原裕太君のニュースがありました。その中で、昨年の中学校の卒業式のときに梶原君が読んだ答辞の内容を一部抜粋します。

『階上（はしかみ）中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。（途中省略）

しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。』

大震災という逆境にも屈せず、またそのことを恨まずに前向きに生きていこうという強いメッセージを震災直後に発した彼は1年後、見違えるくらい精悍な顔つきになっていました。

高校生活も1年を切りました。やるべきことはまだまだ多いと思います。しかし短い期間でも意識を変えてやっていけば人は、いくらでも成長できます。梶原君が1年間で成長できたように君たちもできます。今足りない部分をきちんと**自分の事**として受けとめ、深化させてください。

保護者の皆様におかれましては、日頃の学年の指導に對しまして、ご理解とご協力いただきましてまことにありがとうございました。来年度は、進路決定の年になりさらにご苦勞も多くなることと思います。2学年職員一同、保護者様との連携を強め、お子様を支えていきたいと考えています。今後ご家庭でのご支援をよろしくお願ひします。

離任される先生方

名 前	教科等	異動先
前田 功 先生	校長	県教委
松嶋 勝徳 先生	理科	長崎北陽台高校
岩本 清 先生	地歴	大村高校
竹内 透 先生	地歴	川棚高校
神浦 陽子 先生	理科	諫早高校
伊藤 文 先生	英語	大村工業高校
鈴木 琢也 先生	国語	猶興館高校
片山 司朗 先生	数学	口加高校

名 前	教科等	異動先
林田 彩 先生	理科	対馬高校
釜元 亜矢 先生	養護	小浜高校
大浦 重徳 先生	実習助手	退職
中里 富洋 先生	地歴	北松西高校
松本 奈々 先生	看護	川棚特別支援学校
佐藤嘉良子 先生	看護	退職
白石 りさ 先生	養護	長崎工業高校定時制
中山 仁 先生	事務	浅海中学校